



平成 27 年 5 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社ジャステック
代 表 者 代表取締役社長 中谷 昇
(コード番号 9717 東証第一部)
問 合 せ 先 責 任 者 総務経理本部 早田 幸司
経 理 部 長
T E L 03-3446-0295(代表)

子会社の解散および繰延税金資産の計上に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 5 月 21 日開催の取締役会において、当社の連結子会社 JASTEC International, Inc. (以下、「JII」という。)を解散することを決議しました。

また、本解散決議を契機とした繰延税金資産のスケジューリング見直しにより、子会社への投資に係る将来減算一時差異（過年度に計上した関係会社株式評価損等）について、当第 2 四半期において繰延税金資産を計上することといたしますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 解散の理由

当社の連結子会社 JII は、平成 16 年 4 月に米国において設立し、事業会社である LTU Technologies S. A. S. および LTU Technologies Inc. (以下、2 社あわせて「LTU」という。)を統括する持株会社として機能してまいりました。

平成 27 年 3 月 24 日に発表した「子会社の再編に関するお知らせ」のとおり、LTU 清算手続の進捗状況等を勘案した結果、本日 JII を解散することといたします。

2. 解散する子会社の概要

(1) 名 称	JASTEC International, Inc.	
(2) 所 在 地	1670 Old Country Road, Suite 203 Plainview, NY 11803, U. S. A.	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 中谷 昇	
(4) 事 業 内 容	システム販売事業（持株会社）	
(5) 資 本 金	38.54 米ドル	
(6) 設 立 年 月 日	2004 年（平成 16 年）4 月 30 日	
(7) 大株主および持株比率	株式会社ジャステック 100%	
(8) 上場会社と当該会社との関係	資本関係	当社が 100% 所有しております。
	人的関係	当社役員が当該会社の役員を兼務しております。
	取引関係	当社と当該会社との間に営業上の取引関係はありません。
	関連当事者への該当状況	当社の連結子会社であります。

(9) 最近3年間の財政状態および経営成績 (JII 単体)			
決算期	平成 24 年 11 月期	平成 25 年 11 月期	平成 26 年 11 月期
純 資 産	2,616 百万円	3,382 百万円	3,796 百万円
総 資 産	2,914 百万円	3,833 百万円	4,395 百万円
1 株 当 たり 純 資 産	678,804 円	877,746 円	985,091 円
売 上 高	—	—	—
営 業 利 益 (△ 損 失)	△36 百万円	△16 百万円	△9 百万円
経 常 利 益 (△ 損 失)	△50 百万円	82 百万円	7 百万円
当 期 純 利 益 (△ 損 失)	△50 百万円	81 百万円	8 百万円
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 又 は 当 期 純 損 失 (△)	△13,155 円	21,225 円	2,128 円
1 株 当 たり 配 当 金	—	—	—
決 算 日 レ ー ト	77.60 円	97.75 円	109.45 円
期 中 平 均 レ ー ト	78.81 円	91.48 円	102.00 円

(注) 為替レート (対米ドル) について、貸借対照表項目は各期の決算日レート、損益計算書項目は各期の期中平均レートを適用しております。

3. 清算の日程

清算の日程につきましては、本解散決議後に手続を開始し、現地法律に従って必要な手続きが完了次第、清算終了する予定であります。

4. 業績に与える影響

本解散決議が連結業績および個別業績に与える主な影響は下記のとおりであります。

また、本件を含めた当期の第2四半期累計期間および通期業績予想については、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載しております。

(1) 連結業績

子会社への投資に係る将来減算一時差異 (過年度に計上した関係会社株式評価損および同社への貸付金に対する貸倒引当金) について、当該一時差異の解消時期が不明であったため、当該一時差異に対する繰延税金資産を計上することができませんでした。本解散決議を契機として、当該一時差異の解消時期が明らかになったことにより、当第2四半期において、当該一時差異に対する繰延税金資産を 1,679 百万円計上し、法人税等調整額が同額減少する見込みであります。これにより、四半期純利益が同額増加する見込みであります。

(2) 個別業績

連結と同様、当第2四半期において、過年度に計上した関係会社株式評価損等に係る将来減算一時差異に対する繰延税金資産を 1,679 百万円計上し、法人税等調整額が同額減少する見込みであります。これにより、四半期純利益が同額増加する見込みであります。

また、JII の直近の財政状態等に基づき、同社への貸付金に対する回収可能性を検討した結果、当第2四半期における特別損失として、貸倒引当金繰入額 165 百万円の計上を見込んでおります。

(注) 業績への影響につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因の変化により、見通し数値と異なる可能性があります。

以 上